



Title	樹木害虫について
Author(s)	保田, 淑郎
Citation	makoto. 1977, 18, p. 5-5
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/86187">https://doi.org/10.18910/86187</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 樹木害虫について

大阪府立大学

講師 保田 淑郎

私が居を決めこんでいる東羽衣のあたりは、邸宅の庭の緑が多く、塀越しに匂う金木犀の香を晩秋に、地面を這うようにどこからともなく匂ってくる沈丁花の香を早春にと四季それぞれ風情を感じる。現第四紀の地球は人間支配の世界であるから人間が勝手に丘を切り崩し、谷を埋め地面を平坦化して利用しようとしている。人間が造り上げた新しい環境は狭い範囲の中にアフリカの砂漠からヒマラヤの高山にも似たものまで作る。そしてその土地に多種多様な植物を、植物の地理的分布もなんのその人間サイドの考えで植えて行く。そこに植えられた植物はその環境に適應したもののみが残り育ち、現在開発途上の新しい住宅地も何十年が後には多分その地域独特の安定した植物相を作り緑の庭を持つ住居と共に新しい自然が出来上って行くのであろう。一方、大阪府の五年の統計によれば府下に緑地や公園は大小とりまぜて、四七八

ヶ所、約二、一四九ヘクタールあり、大阪市では五二〇ヶ所、約八一八ヘクタールと言う。これらの公園に植栽されている樹木は多様であるが、大阪市の場合、カロリナポプラ、クス、ケヤキ、サクラ、イチヨウ、ヒマラヤ、カイズカ、プラタナス、ヤナギ、ニレ、トウカエデ、ニセアカシヤ、エノキなどが上位のものであると聞く。早く成長し欧米諸國の都市の様が緑が目立つ環境となつて欲しいものである。又新興住宅地に住みついた人々は現在、建物の管理に精一杯と言つた所で、建材の害虫のシロアリやヒラタキクイヤチビタケナガシクイ、そして古い家から一緒に引越してきてしまったゴキブリなどと懸念の対決を余儀なくされているけれど、これが一段落した時人々は多分庭木に関心を寄せるであらう。そしてその庭木を攻撃して来る病害虫との戦いにいやでもまき込まれる羽目になる。今、大阪近郊でサクラを植えると主な病

害虫として約三十が数えられると言われているが、身のまわりの庭木や公園木や街路樹がいかに多くの病害虫からの攻撃を受けるか計り知れず、前述の新興住宅地の庭木や公園の樹木の前途が思いやられる。しかし、サクラの場合でも三十もの病害虫が一気にわつと押寄せて来る訳ではない、花が咲いてから葉が落ちるまでの間に立代り入りやってくるのである。いつだつたか近所のソメイヨシノの新葉がミダレカクモンハキの幼虫の攻撃を受けた。この蛾は年一化で卵越冬し、新葉の萌る頃解化し新葉を喰荒す。虫は季節を間違ふ事はない、吾々にとつて心地よい春のそよ風はこの虫の卵を冬の眠から醒ます。この虫の害は二、三年続いたが或る年突然姿が消え、同時に今度はクワシロカイガラが現われて、二、三年後には数本の枝が枯死した。このサクラ今ではアメリカシロヒトリとオビカレハにいじめられており、例のミダレカクモン

ハキもクワシロカイガラも姿を消したままになつている。この様に同じ場所の同じサクラでも季節や年によつて攻撃して来る虫のメンバーは交代している。これはサクラに限つた事ではなく多くの樹木の害虫について言える事である。

樹木の害虫の中でもカイガラムシの仲間ほどやっかいなものはない。定着した虫体はワックスに包まれていて殺虫剤をよせつけないばかりか吸つた樹液を体外に排泄するので、これが葉について汚れるし、そこにスズ病などが発生する。しかし、このカイガラムシも卵から孵つたばかりの幼虫は体表にワックスを持たず殺虫剤には弱い。曾て住宅公園の或る団地のカナメモチにタマカタイガラムシが発生し相談を受けた。私はこの虫の飼育法を示し事務所の方に飼育を依頼した。事務所から花粉の様なものが枝から落ちて来るとの連絡を受けたのは五月の終り頃であつたと記憶する。卵が孵り出したのである。そこで事務所の方に種類は何でもよいから手持の殺虫剤を出来るだけ濃度をうすめ圧力をかけて枝を中心に三日おきに三回散布するよう推めた。これは孵化したての

幼虫を流しとばす意図からであつたが図に當つてその後この虫の害は目立たなくなつた。先に述べた食葉性のアメリカシロヒトリにしてもオビカレハでも、また、ツバキのチャドクガ、エノキのヒメクロイラガ、ウバメガシのオオトビモンシャチホコ、タケのホソクロバなど、すべて幼虫が小さくて集団している時期に除去すればその防除は簡単である。いずれにしても害虫に對する場合、相手を知る事が重要であり、知る事によつて防除の為の良いヒントが得られるように思う。

## 府政だより

◆◆◆◆◆

大阪府衛生部では次の主な行事が行われる予定です。

○狂犬病予防月間

期間 四月中

○全国水道週間

期間 六月一日～七日

○夏季における食中毒防止月間

期間 六月～七月

○歯の衛生週間

期間 六月第一週

○農薬危害防止運動

期間 六月中

○性病予防月間

期間 六月中